

男女の陰陽を知る5.6

志庵鍼灸院 山口誓己



1

1

【男の子の自我】

- ・少年の興味は自分そっちのけで外に向かうため自分への意識が著しく低い
- ・思春期に腎の固摂によって生じる男の子の自我は、本当の自我ではなく、仮の自我。
- ・世間一般的にいう社会的成功、評価を求めて社会で競争して行けるように、他人があこがれるヒーローモデルを自我のように錯覚する。
- ・男性が本当の自我に出会うのは、ある程度の社会的成功を手に入れた後、または男性ホルモンの分泌が低下して性欲が幾分緩やかになる中年後半

2

確固たる自分というものは存在しない

- ・生命とは流れであるため、私たちの思考、感情、感覚、欲望は常に移ろっている。
- ・私たちは動的平衡を保つという形で「自分」形成している
- ・私たちが探さないといけないのは、「自分」ではなくて、今好きでたまらないものや、得意なもの
- ・自分にスポットライトを当てずに、好きなもの、得意なもの、自分ではなく、対象物にスポットを当てることが大事

3

思春期（男の子）

- ・14歳～18歳くらいの間、陽の機能が加速し、それとバランスを取るために一時期陰気が盛んになる。こうなると無愛想になる
- ・男子はかばってあげたい人を持つと良い
それを母親が演じる
- ・母親は息子に弱音を吐く、頼る、
母親がしっかりしてない方が息子はしっかりする。
- ・男子に最もいい言葉、それは「かっこいいね！」
- ・頼りにする、感謝する、弱音を吐く
- ・食事と睡眠、夜の光の管理

4

腎の固摂

腎の固摂によって生命は隠される
生命を隠す = 自分を隠す = プライバシー

- ・ 自分だけの場所
- ・ 自分と対話する場所

秘密の場所
(プライバシー)



過干渉

5

腎の固摂

外から圧力をかけることでより固くなる
(ストレス耐性能力)



肉体的・精神的ストレス



親がストレスを取り除く → 過保護

6

思春期（女子）父親がすること

- ・ 娘は父親のフェロモンを嫌う
- ・ 子育てに失敗したわけではない、娘がおかしいわけではない、父親が悪いわけではない、これは当たり前のことだと知る。
- ・ 一生続くわけではない、一時のことだと知る。
- ・ これらを知って、この時期をなんとか耐えてやり過ごすこと。
- ・ 娘に無償の愛を注ぐ時期。
- ・ 娘のひどい態度には悲しい顔を見せるのが効果的
- ・ 一生の絆を結ぶための時期。

7

思春期（女子）母親がすること

- ・ 父親へのひどい態度には、きっちりと叱ること
- ・ 食事の管理
- ・ この時期の栄養状態によって、女性としての一生の基盤が作られる。（自愛力、恋愛力、直感力、妊娠力、出産力）
- ・ この時期のダイエットは死守する

8

糖質を上手に取る

糖質は脳の唯一のエネルギー源

血糖値を乱高下
させない

空腹時にいきなり
糖質をとらない

朝食に気をつける

寝る2時間前から
糖質の摂取を止める

9

男性の扱い方

- ・「上機嫌、沈黙、頼る、盛大に喜ぶ」
- ・女性是我的充実感＝幸せ
女性にとって幸せは感じるもの
- ・男性にとって幸せは確認するもの
自分の幸せを自分一人で作り出すことができない
よって肩書き、評価（業績や数字）、女性の笑顔、子供の喜ぶ
顔で幸せを確認する
- ・期待をし、褒めてあげる

10

恋愛

- ・女性は、生活を整える、行動範囲を変える
- ・男性はフェロモンをたくさん出して、撒き散らす
- ・フェロモンはテストステロンの量に比例する

テストステロンの出し方

- ①毎朝5時に一定量が出る
- ②できるだけ暗闇で寝る
- ③上質な睡眠をとる
- ④夜寝る前に肉体疲労がある
- ⑤視覚刺激
- ⑥時々、徹夜など無理をする
- ⑦命の危険

11

自己肯定感

- ・女性の自己肯定感は低く、人の評価を気にする
- ・群れの中で子育てをしてきたから
- ・群れたいのに1番になりたがるのが女性の本能
- ・いい子、いい人、いい女であろうとして自分を見失う
- ・恋や家族以外の好きなものに会う必要がある。

12